

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：32605

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23531024

研究課題名(和文)創造性を育む音楽づくりの教育プログラム開発

研究課題名(英文)Developing Education Program of Music- Making Activities to Enhance Creativity

研究代表者

木村 充子(KIMURA, Mitsuko)

桜美林大学・芸術・文化学系・講師

研究者番号：60550879

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：乳幼児、児童、保育者・教員養成課程の学生の音楽的な活動を観察することを通し、創造性について問い直すことから始め、「創造性を育む音楽づくりの教育プログラムを開発すること」を目的として研究を行った。音楽づくりに関連するフィールドを継続的に観察するとともに、仮説にもとづく実践(音楽づくりの教育実践)を行い、さらに教育現場での意識調査を目的とした質問紙調査を実施した。モノ・音とかかわり探究するプロセス、他者とかかわり協働するプロセス、制約を手がかりとして試行錯誤、工夫するプロセスにおいて創造性が発揮され、かつ創造的な活動が促進されることが明らかになった点が、本研究の中心的な成果である。

研究成果の概要(英文)：With the objective of developing an education program of music-making activities to enhance creativity, this research started off revisiting the concept of creativity through observation of music-making activities of infants, elementary school pupils, and students of teacher-training college. It continued on observing music-making activities in the field, practicing hypothesis (delivering trial education program of music-making), and undertaking questionnaire survey of teachers regarding creativity. The main finding from the research was that creativity be demonstrated in the processes of 1) searching sounds that they really want to make through playing with and trying materials, objects, and sounds around them, 2) associating and collaborating with other people, and 3) making try-and-error under appropriate restrictions.

研究分野：音楽教育学

キーワード：音楽教育 創造性 音楽づくり

## 1. 研究開始当初の背景

これまで、教科教育において「音楽づくり」「創作」の指導が行われており、小学校、中学校それぞれに教育の内容や方法および教材について様々に議論され、研究も活発に行われてきた。しかし、そもそも「なぜ、音楽をつくる活動をするのか」「音楽をつくる活動を通して何を育てようとするのか」について、子どものありのままの姿を見取ることを出発点とする本質的な議論が不十分なままであったといわざるを得ない。音楽づくりの教育における主な課題として以下の2点を挙げることができる。

### (1) 乳幼児期の経験や感覚と分断された「音楽づくり」

小学校の教科教育で行われる音楽づくりの活動についてその目的や内容を論じるとき、目の前の子どもたちの今現在のありのままの姿を見取ことは無論不可欠であるが、さらに、彼らが乳幼児であった頃に携えていたはずの感覚や感性、そしてその連続としての「今」があるという事実を看過することはできないはずである。しかし、現状では、この点を十分に視野に入れて教育の内容や方法および教材が検討されているとはいえない。我々は、乳幼児期の子どもたちが、音・音楽と自然にかかわり合うありのままの姿に立ち戻り、そこから、創造性とはどのようなものなのかという本質的な問題にもう一度向き合う必要がある。そのことにより、小学校の教科教育における「音楽づくり」が、乳幼児期の経験や感覚と分断されたものとしてではなく、連続した経験や学びとなるための系統的な教育プログラムを開発することができると考えた。

### (2) 結果としての完成作品のみが重視された「音楽づくり」

クラトゥスは子どもが音楽をつくる活動に関する研究の中で「創造的な音楽活動のプロセスはすなわち子どもたちが音楽的な様々な問題に直面しつつそれを解決していくプロセスに他ならないのであり、そこから我々は子どもたちがどのようにして音楽

的な行為や思考の仕方を身につけていくのかという問題について理解する糸口を得られる。」<sup>1</sup>と述べている。しかし、現状では、結果としての作品の完成に主眼をおくために作品の枠組みや条件を限定したり、完成作品を評価することを重視したりする傾向が強いといわざるを得ない。クラトゥスの言説の通り、音楽づくりにおいては、結果よりもむしろプロセスこそが重視されるべきであるといってもよい。なぜなら、そこで生じる発見、葛藤、工夫などの経験が音楽的な学びという側面から重要なものであるばかりでなく、これらの経験そのものが創造的な営みであるといえるからである。

<sup>1</sup> Kratus, J(1994). The Ways Children Compose, Musical connections: Tradition and Change. ISME. New Zealand: The University of Auckland, p. 128-140

## 2. 研究の目的

乳幼児、児童、保育者・教員養成課程の学生の音楽的な活動を詳細に観察し、分析することを通し、創造性について問い直すことから始め、「なぜ、音楽をつくる活動をするのか」「音楽をつくる活動を通して何を育てようとするのか」の問いに対し、子どものありのままの姿を見取ることを出発点としたアプローチを行い、創造性を育む音楽づくりの教育プログラムを開発することを目指した。従来の音楽づくりの教育内容・方法において欠如していた以下の2点を特に重視した。

- (1) 乳幼児期から大人になるまでの育ちに寄り添った系統的なものであること
- (2) つくるプロセスにおける経験や学びに焦点を当てたものであること

## 3. 研究の方法

### (1) 基礎的調査

音楽教育における音楽づくりの活動の理念、目的、内容、方法などを国内外の文献資料や教科書から歴史的に調査、研究するとともに、哲学、心理学、教育学の領域におけ

る創造性研究についての基礎的研究を行った。

#### (2) フィールドワーク（観察）

保育園、幼稚園、こども園、小学校、大学（保育者・教員養成課程）においてフィールドワーク（観察）を行った。音・音楽と人とかかわりについて、創造性に関連する現象を中心に観察・記録し、そのデータを分析・解釈した。

#### (3) インタビューおよび 質問紙調査

音楽づくりにおける創造性についての教育現場での意識調査を目的とし、現職の小学校教諭（音楽）を対象としたインタビューおよび質問紙調査を行った。

#### (4) 教育プログラムの開発と実施

主に保育者・教員養成課程の学生を対象とし、仮説にもとづく実践（音楽づくりの教育実践）を行い、仮説の生成と修正を行った。

### 4．研究成果

音楽づくりに関連するフィールドを継続的に観察するとともに、仮説にもとづく実践（音楽づくりの教育実践）を行い、さらに教育現場での意識調査を目的としたインタビューおよび質問紙調査を実施した結果、以下の3点が明らかになった。

- (1) モノ・音とかかわり自らの欲する音・音楽を探究するプロセスにおいて創造性が発揮され、かつ創造的な活動が促進されること
- (2) 他者とかかわり協働しながら音楽をつくるプロセスにおいて創造性が発揮され、かつ創造的な活動が促進されること
- (3) 制約を手がかりとして試行錯誤、工夫しながら音楽をつくるプロセスにおいて創造性が発揮され、かつ創造的な活動が促進されること

### 5．主な発表論文等

#### 〔雑誌論文〕(計6件)

古山 典子、集団による音楽創作活動における「創造性」- 大学生による音楽創作活動の事例分析 -、就実論叢、43号、2014、235 - 246

石川 眞佐江、幼児の遊び場面における歌の諸相と機能、東京藝術大学博士論文、査読有、全巻、2013、全190頁

古山 典子、国府 華子、小学校教師が考える「音楽をつくる活動における『創造性』」- 質問紙調査をもとに -、就実教育実践研究、査読有、第6巻、2013、35 - 50

井藤 元、山原 麻紀子、ルドルフ・シュタイナーの音楽理論 - その思想的背景と教育実践の連関 -、東京家政学院大学紀要、査読有、第52号、2012、45 - 54  
志民 一成、石川 眞佐江、中村 かおり、幼児の声の技能を引き出す歌唱実践の試み - 静岡大学教育学部附属幼稚園における実践の検討 -、静岡大学教育学部研究報告 教科教育学篇、2011、223 - 234

#### 〔学会発表〕(計21件)

木村 充子、村上 康子、長井 覚子、子どもの音楽的表現の萌芽 - ワークショップ「息の部屋」における子どもの姿から -、全国保育士養成協議会第53回研究大会、2014年9月19日、ホテルニューオータニ博多（福岡）

木村 充子、鹿嶋 桃子、福田 きよみ、藤原 由香里、即興的パフォーマンスという観点から学びと創造を考える、日本発達心理学会第25回大会、2014年3月21日、京都大学（京都）

石川 眞佐江、村上 康子、保育における楽器を用いた活動の展開、日本保育学会第66回大会、2013年5月12日、中村学園大学（福岡）

育木 美紀子、保育者養成校における楽器製作を通じた学び - 竹をもちいて -、日本保育学会第66回大会、2013年5月

12日、中村学園大学（福岡）  
木村 充子、子どもの音楽的な表現活動  
における創造性と制約（1）日本保育  
学会第66回大会、2013年5月12日、  
中村学園大学（福岡）

古山 典子、国府 華子、小学校教師が考  
える「音楽をつくる活動における『創造  
性』」- 質問紙調査の結果分析(その2)  
-、日本音楽教育学会第43回大会、2012  
年10月7日、東京音楽大学（東京）

村上康子、石川 眞佐江、音を聴く活動  
における子どもの言語表現 - 他者との  
関係性に注目して -、日本音楽教育学会  
第43回大会、2012年10月7日、東京  
音楽大学（東京）

石川 眞佐江、幼児の並行遊び場面にお  
ける歌の機能 - 子ども同士のかかわり  
の生成に着目して -、日本音楽教育学会  
第43回大会、2012年10月7日、東京  
音楽大学（東京）

今川 恭子、長谷川 慎、糸を用いた音遊  
びの可能性 - 音を探求する幼児の動き  
の分析を通して -、日本音楽教育学会第  
43回大会、2012年10月7日、東京音楽  
大学（東京）

Murakami, Y. & Ishikawa, M., Essence of  
the Activity of "Listening" in the  
Preschool, Pacific Early Childhood  
Education Research Association 13<sup>th</sup>  
Annual Conference,  
7/20/2012, National Institute of  
Education (Singapore)

石川 眞佐江、村上 康子、町山 太郎、  
幼稚園における「聴く」活動の意義（1）  
- 言語活動に着目して -、日本保育学会  
第65回大会、2012年5月4日、東京家  
政大学（東京）

村上 康子、石川 眞佐江、町山 太郎、  
幼稚園における「聴く」活動の意義（2）  
- 相互主観性に着目して -、日本保育学  
会第65回大会、2012年5月4日、東京  
家政大学（東京）

今川 恭子、長谷川 慎、糸で遊び、音で  
遊ぶ - 箏の糸を用いた活動をめぐって  
-、日本保育学会第65回大会、2012年

5月4日、東京家政大学（東京）  
福田 きよみ、鹿嶋 桃子、岩田 恵子、  
白澤 舞、木村 充子、創造性と制約 - 遊  
びや表現を豊かにする制約とは -、日本  
保育学会第65回大会、2012年5月4日、  
東京家政大学（東京）

国府 華子、古山 典子、音楽創作活動に  
おける「創造性」とは - 小学校教諭への  
質問紙調査 -、日本音楽教育学会第42  
回大会、2011年10月22日、奈良教育  
大学（奈良）

今川 恭子、石川 眞佐江、木村 充子、  
聴く・ふれる・声でかかわる・文化と出  
会う - 幼児の経験と芸術表現とを結ぶ  
実践の検討 -、日本音楽教育学会第42  
回大会、2011年10月23日、奈良教育  
大学（奈良）

木村 充子、保育者養成課程における編  
曲指導（2） - 創造的営みとしての編曲  
-、日本保育学会第64回大会、2011年  
5月21日、玉川大学（東京）

〔図書〕（計1件）

山原 麻紀子 他、福村出版、鈴木昌代  
編『子どもの心によりそう保育者論』、  
第11章「保育者間、専門機関との連携・  
共同」、2012、140 - 152

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

木村 充子 (KIMURA, Mitsuko)  
桜美林大学・芸術・文化学系・講師  
研究者番号：60550879

### (2) 研究分担者

今川 恭子 (IMAGAWA, Kyoko)  
聖心女子大学・文学部・准教授  
研究者番号：80389882

国府 華子 (KOH, Hanako)  
愛知教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：70282811

古山 典子 (KOYAMA, Noriko)  
就実大学・教育学部・准教授

研究者番号：10454852

石川 眞佐江 (ISHIKAWA, Masae)

静岡大学・教育学部・准教授

研究者番号：80436691

斉木 美紀子 (SAIKI, Mikiko)

田園調布学園大学・子ども未来学部・講師

研究者番号：40586418

山原 麻紀子 (YAMAHARA, Makiko)

東京家政学院大学・現代生活学部・准教授

研究者番号：10529952